

福島県東京事務所 伊藤所長が、本県を応援くださる企業の方々と対談する企画も4回目を迎えました。今回は東京都港区にある汐留ビルディングに入居されている企業の皆様の交流会に参加させていただき、元Jリーガーの西嶋弘之さんにお話をうかがいました。



○写真右から  
DREAM福島アクション  
プラン フロントオフィス  
西嶋 弘之さん  
福島県東京事務所長  
伊藤 直樹

## ■西嶋弘之さん略歴

1982年4月生まれ（奈良県北葛城郡出身）

奈良育英高校卒業後、2001年にサンフレッチェ広島へ加入。以降、ヴィッセル神戸、コンサドーレ札幌、徳島ヴォルティス、横浜FC、ギラヴァンツ北九州に所属し、2017年に現役を引退するまで17年間Jリーグで活躍。

現在は、セカンドキャリアとして、NDF（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）福島第一原子力発電所現地事務所の職員として、また、DREAM福島アクションプランフロントオフィスの一員として被災地域への貢献活動を行っている。

**伊藤**：今日は、DREAM福島アクションプランで活動されている西嶋弘之さんをお迎えして、DREAM福島アクションプランの取組をテーマにして、お話を聞きたいと思っています。

西嶋さんは2011年、Jリーグの現役時代に東日本大震災に遭遇したと思いますが、震災当時の様子や、その後のJリーグをとりまく環境や変化等についてお聞かせください。



**西嶋**： 僕自身、小学校4年生の時、奈良県で阪神淡路大震災を経験しました。2011年の時は徳島ヴォルティスという徳島のチームにいて、次の日が富山で試合のため、富山に特急で移動中でした。車内では「大変な事が起きたぞ」と皆がざわざわしていましたが、「でも、大丈夫でしょ」みたいな雰囲気は多少はありました。

ホテルに着いてすぐ、翌日の試合中止が決まり、テレビでニュースを見ていたら、「これはそれどころじゃないな、本当に大変なことが起きたんだな」と思いました。原子力発電所の中継は今でも目に焼きついています。

徳島に戻った後にチームの意向もあり、募金活動をしようということになりました。遠く徳島という離れた土地であっても、今できることをやろうということで、選手会とクラブが一丸となってやりました。

それまでも災害等に対し、サッカー界ができることはやっていたとは思いますが、東日本大震災以降は、Jリーグとして、一クラブとして、また一個人としても、それぞれができることに取り組んできたと思っています。



**伊藤**： その時、その時、皆さんができるところに取り組みで支援していこうと活動していただき、本当にありがたいと思います。

東日本大震災は西嶋さんにとっても大きなでき事だったと思いますが、現役引退後のセカンドキャリアとして、現在こういった活動をされているのかお話し願います。

**西嶋**： 引退にあたって、サッカーには引き続きかかわりたいと思っていたのですが、サッカー界で知り合った方から、「NDF（原子力損害賠償廃炉等支援機構）という

組織で福島の廃炉の仕事をしていて、今後、仕事を続けていく中で地域とのかかわりが非常に大切になってくる。そういう中でサッカーの力も借りながら、地域との接点を作ってほしい。」とのお話をいただいて、これは、セカンドキャリアとして、チャレンジするべきことではないかと思いました。

小学生の時にサッカー選手になりたいという夢を持ち、中学生になって、Jヴィレッジができた97年に関西選抜に選ばれ、初めてJヴィレッジに合宿に来ました。施設のすばらしさに驚くとともに、同年代の日本を代表するような選手たちが集まって一緒に合宿した時に、「サッカー選手になるということを夢で終わらせるのではなく、高校3年間頑張って絶対にプロになってやろう」と思いました。

Jヴィレッジは実際に「夢を目標に変えてくれた場所」で、僕にとってかけがえのない場所です。

17年間の現役生活引退後に、自分にとって大切な場所であるJヴィレッジとかかわりながら、被災地域のためにサッカーを通して活動できるチャンスをいただき、これはもう自分自身が挑戦というか、社会に貢献すべき仕事と感じて、現在は自分にできることを一生懸命取り組んでいます

具体的にはNDFの職員として働きながら、日本サッカー協会とJリーグ協同の取り組みであるDREAM福島アクションプランに、フロントオフィスの一員として参画しています。Jヴィレッジや原発被災地域を中心に、サッカー界として地道に福島復興支援活動や地域貢献活動に、たくさんの人たちの協力を得ながら取り組んでいます。

**伊藤**： 地域とかかわりたいという思い、それから夢を目標に変えてくれたJヴィレッジとかかわりながらの活動というところが原動力に、原点にあるというお話ですけども、DREAM福島アクションプランでは具体的にどんな活動をするのかというところを教えてください。

**西嶋**：DREAM 福島アクションプランは、「とにかくサッカーやスポーツ、J ヴィレッジを通して地域のため、

福島復興のためになるようなことであれば何でもしましょう」ということだと自分なりに解釈しています。

主な取組としては、交流人口の拡大としてJ ヴィレッジでイベントの開催、また、風評払拭のためにJリーグの試合で福島のPRブースを出展させていただき、「J ヴィレッジ駅ができました」「J ヴィレッジが再開して、これだけ子供たちが笑顔で元気に活動しています。」など、福島の現状を伝えています。また、その際に福島県さんにも協力していただいて、一緒にやっています。

もう一つは、僕自身の経験・経歴を活かして、「地元のニーズに応える」という取組を意識しています。

具体例としては、帰還困難区域から解除されて、2018年4月に再開を果たした富岡町の富岡小学校の校長先生と話をした時に、地域に対する強い思いをお持ちの先生で、現在学校では様々な課題を抱えており、「6年生はいつも低学年と一緒に活動していて、なかなか全力で運動できない。」そして、「バスケットボールぐらいはできますが、サッカー等の団体競技を経験させるのが難しいんです。」というお話をききました。そこで、「僕にサッカーを通してやらせてくれないですか」となり、5・6時間目の時間を頂き、生徒達に全力で運動してもらうことで、少しでも笑顔にすることができたら、何かを感じ取ってもらえたら、という思いでサッカー教室を実施させていただきました。

ほかにも少しずつこのような活動が広がっていて、川内村では放課後に小学生がバス通学のため、一度、近くの公共施設に集まり、そこで2時間くらい宿題や様々な活動をして、それぞれ自宅へ帰るのですが、その際、30人くらいの子供たちの面倒を見ているのがご婦人達で、「子供たちのエネルギーを受け止めるのに毎日が大変」という声があり、「そのエネルギーをサッカーに向けてみてもらいましょうか。」ということでサッカーを通して、遊んだりしました。こういった形で市町村を回りながらコミュニケーションを取り、「実際にこういった事で困っている」「こういう事があれば助かる」という声に自分の経験・経歴を活かせるようなことがないかなと考えて、地道に着実に少しずつですが活動しています。



**伊藤**：西嶋さんの活動の中で、地元の小学校の子供たちとの交流についてお話をいただきました。

また、福島の現状をもっと知ってもらおうと風評風化対策にも取り組んでいただき、ありがとうございます。

それでは、首都圏での活動についても、お聞きしたいと思います。

**西嶋**：具体的には、例えばFC東京さんに福島の復興に協力していただいています。JリーグのFC東京のホームゲームにおいてDREAM福島のブースを出させていただき、実際にいろんな写真、自分のサッカー教室の写真とかも使いながら、「福島やJ ヴィレッジは今、こうですよ」とPRをさせていただいています。

僕もテレビのニュースでJ ヴィレッジを見て衝撃を受けたのを覚えています。緑の芝生のピッチや綺麗な格の高い施設だったところが、駐車場になったり、スタジアムが仮設宿舎になった姿が流れ、そのイメージ

が強く、もうJヴィレッジは駄目みたいな雰囲気があったと思います。

そのような中でも、サッカーにかかわっている人たち一人一人がJヴィレッジに対して想いを持ってくれていて、「やっと再開できたんですね」とJヴィレッジのことを気にしていただいている反面、「再開したんですか？」と驚きの声もあり、現状を知らない方たちもたくさんいたように思います。

それでも、一部オープンした去年の7月、8月頃よりも、全面オープンした今年の秋頃にPRした時の方が着実に皆さんがJヴィレッジのことを、現状を知ってくれていると感じました。「実際に行ったよ」、「現地でプレーしたよ」と言ってくれる子供たちも増えてきて、ようやくスタートラインに立てたんだなと感じています。

放射線については、人それぞれの受け取り方があると思いますが、まずは、実際に来ていただきたいなと思っています。

来て、見て、感じていただいて、それを周りにそのまま発信してもらおうような流れにできればと思って、一人一人とコミュニケーションを取らせていただいています。



**伊藤**：ただいまの西嶋さんのお話にありまし

たとおり、福島は元気になっているという姿が、なかなか、他県の方に浸透していかないという一面があるのかなと思います。今、西嶋さんがおっしゃった「福島に来て、見てもらいたい」、それと併せて、お酒も呑んでいただき、福島を応援していただきたいと思います。

また、Jヴィレッジはサッカーをしなくても、宿泊だけでも利用できる施設です。

本当に施設が立派で、是非一度ご家族や町内会で来て利用していただければと思います。

最後に西嶋さんのDREAM福島アクションプランの一員として、それから西嶋さん個人

としてのこれからの目標、展望というのがあれば、お聞かせください。

**西嶋**：やはり、Jヴィレッジという施設が僕自身の夢を目標に変えてくれた場所で、そういう想いをしてくれる子供たちがこれからもたくさんいると思うので、Jヴィレッジにいっぱい子供が集まってほしいです。夢や目標などを持って、元気に一生懸命人生を歩いていく子供たちが増えていってほしいなと思います。

そして、素晴らしい施設ですので、代表クラスにならないと行けない、格の高い、敷居の高いすごい施設であってほしい。その反面、もっと気軽に地域の子たちも「僕たち私たちの施設なんだ」って言えるような施設でもあるというのを作っていったらという想いもあります。

あと、セカンドキャリアという意味では、サッカーが終わってから、サッカー界しか知らなかった自分が、こういう廃炉業界にかかわり、いろんなものを見ること、感じる事ができて、福島のたくさんの方々や企業の皆様とこうやってお会いすることができる、やはり知らないことばかりだなと感じます。知らないことばかりだということを知ることができたことが、引退して2年間の活動の中で、一番の収穫だと思っています。

今後は、自分自身の幅を広げながら、ここから続く僕の人生も充実したものになるよう、いろいろとチャレンジしていきたいなと思っています。

**伊藤**：ありがとうございました。福島県の今年の一つのキーワードが「協働、コラボレーション」です。そういう意味で西嶋さんとも一緒に、私たちが協力しながら、今日お集まりの皆様とも手を携えながら、しっかりと前進していきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。